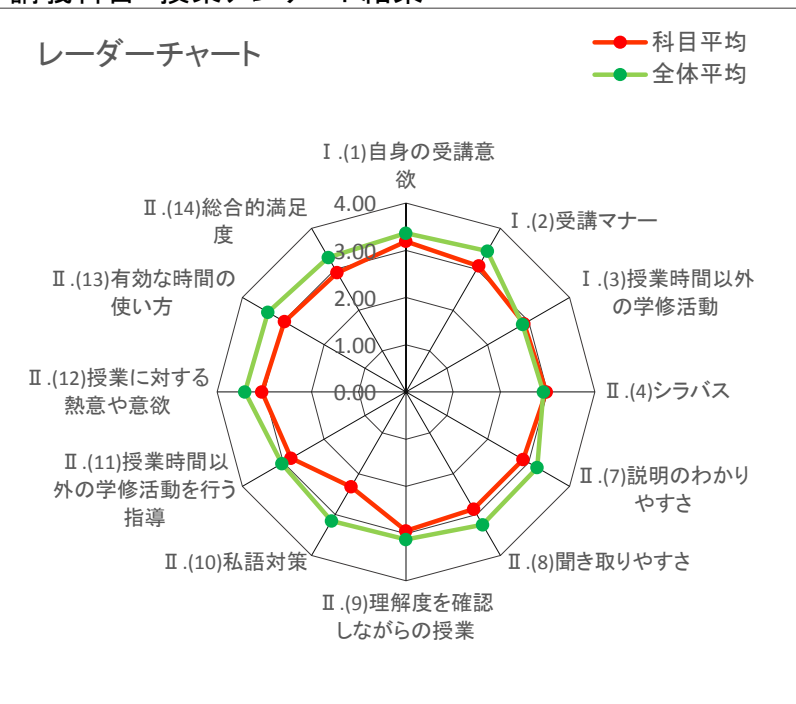
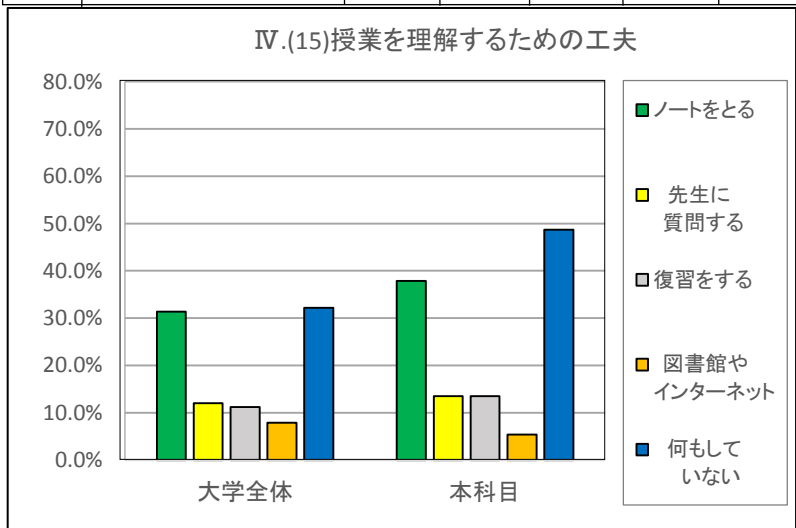


講義科目 授業アンケート結果



※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2、(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉	ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(15) 授業を理解するための工夫	37.8%	13.5%	13.5%	5.4%	48.6%



	設問No	科目平均	全体平均
受講姿勢	I.(1)	3.19	3.36
	I.(2)	3.08	3.45
	I.(3)	2.89	2.86
受講内容・方法	II.(4)	2.97	2.91
	II.(5)		
	II.(6)		
	II.(7)	2.86	3.21
	II.(8)	2.86	3.25
	II.(9)	2.94	3.13
	II.(10)	2.32	3.16
	II.(11)	2.81	3.04
	II.(12)	3.05	3.41
	II.(13)	2.97	3.37
満足度	II.(14)	2.92	3.29

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢		
I.(1)~(3)	3.05	3.22
講義内容・方法		
II.(4)~(13)	2.85	3.18
総合的満足度		
III.(14)	2.92	3.29

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2015年度 前期
時間割番号	21101
科目名	英語 I
教員名	

①授業計画の達成度について
 私の担当する3クラスはなぜかクラス間の学力格差が大きく、同一の1科目としての対応がかなり難しく、おおむね計画どおり授業をすすめることはできたものの、特に難易度についてはクラス間でかなりの違いがあり、その違いは真逆に近いと言えるほどのものであり、戸惑いを覚えた。まさか学力別にクラス編成がなされているわけではないのであろうが、入試形態もさまざま、あり、入学してくる学生についても学力も含め実に多種多様であり、特にスポーツ関係の学生や再履修生が集中しているクラスについては低学力の傾向には著しいものがあり、難易度の上での対応も難しく、残念ながら若干名の不合格者が出てしまった。

②授業の進め方について
 7以降の設問については残念ながら全体として平均を下回り気味であり、上の①で述べたような難易度についてのミスマッチ、そしてそれが原因の一部となっているとも思える私語については特に各クラスに合った対応策が必要であろう。そして間違いなくそれは授業の聞き取りやすさや授業満足度についての回答にも影響しているであろう。人間教育学部の前年度の一期生に比べ、なぜか学生の学力格差が大きく、今年度は対応がはるかに難しいと痛感した。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について
 学生の学力格差が前年度よりもなぜか大きく、クラス間でのその格差も通感させられるこの誤算とも言いたくなる現実を突き付けられたからには、クラスによっては授業の進度や難易度を変えるなどの対応が必要であり、一部とは言え低学力のとりわけ傾向が著しい学生に対してはさらに特別な対応が当然求められるであろう。そして何よりも問題である私語についてであるが、授業のやり方以前のこととして、座席の位置がふらふらして一定しない5124教室の座席について、一部の学生からも授業に集中しにくいなど既に苦情が出ていることもあり、後期からは教室を変更し、座席がきちんと固定された教室で座席指定をした上で授業を進めていくこともまたとりえず私語対策の1つとなるのではないかと思います。